

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 終 祈 願
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第三年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成之御願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成 法灯相統促進

朝参詣強調週間
三月二日～六日
第一連合担当
本年もいよいよ朝参詣強調週間の始まりです。
寒参詣も済み、春の当来です。朝参詣に気張り、ご利益をいただきますよう。

当山の本年度のご奉公方針の主願ともいふべき、御十七回忌報恩ご奉公達成は、いわば至上命題であります。この目標を達成させて頂くためには、なんと申しても口唱経力以外にありません。全信者が一丸となってお籠りすることにより、宝前からのご冥加を蒙ることになるのです。

三月の御総講日
一日 十時 御修行日
七日 十時 バースデー総講
日序上人報恩祈念
(併一万遍口唱念)

十三日 十時 高祖御命日
開導御命日
十七日 十時 門祖御命日
廿五日 十時 清流寺

十二日 十時 高祖御速夜
(併一万遍口唱念)

十六日 十時 開導御速夜
廿四日 十時 門祖御速夜
三十日 十時 敬尊御命日
於羽村別院

特別行事
春季彼岸会総回向
廿一日 午前十時 本寺
廿四日 午前十時 羽村別院

会議
一日 御総講後 役中会議
廿一日 午後一時 参事会
廿五日 御総講後 教区長会議

日序上人御十七回忌報恩ご奉公 記念事業の完遂 全力でメルボルン別院の改修を成就させよう！

平成廿一年から始まった報恩ご奉公の御有志勧募は本年で一応、一区切りの五年を迎えることになりました。

先往日序上人の御年回に合わせて記念事業の計画立案、その実現に向けて頑張つて参つたわけですが、二千口目標のところ、現在までに約千五百口までまいりました。

当初、立案誓願させていただいた記念事業のうち、メルボルン別院の改修はとりのこされたままになっており、別院の建物は、築九十年をむかえようとしています。

これまでも部分的な補修は施してまいりましたが、現時点では、崩壊の危機がせまっております。

本年度の他寺院参詣(前期)

四月十二日(土) 本寺・乗泉寺
二十日(日) 館山・廣全寺
五月四日(日) 大阪・清風寺

本年度の他寺院参詣は、まづ四月十二日(土)本寺・乗泉寺への当番参詣です。

その一週間後の四月二十日の日曜日は、館山・廣全寺さんへ門祖会のお参詣です。

廣全寺さんの門祖会は、当山住職が奉修導師をお勤めになります。

渉外部としては、本寺の当番参詣に九十名、廣全寺さんには、前日出発して一泊し翌日お参詣の予定です。

また、五月四日は、大阪・清風寺さんの本堂落慶開庭式のお参詣も予定されていますので今から心準備をして他寺院参詣に気張りましょう。

毎月七日は一万遍口唱会

午前六時～正午まで
一人でも多くの参詣で熱寿を捧げよう！

日序上人御十七回忌報恩ご奉公円成にむけて、毎月七日のバースデー総講の当日は、午前六時の朝参詣開始時刻から正午まで、途中バースデー総講をささみ一万遍口唱会を二月から実施しております。

立派な武士であつても神を信ぜぬものは天国に生まれることは出来ませぬ。あなたも地獄が恐ろしいと思つたら、今日から正しい信仰に入られるがよろしい。」と。

その武士は憤然として「いや父を地獄へおいて、自分だけが天国に生まれるのは、子としての道が立たぬ。子として父と苦楽を共にせねばならぬ。父が地獄に堕ちていゝ事が確実ならば、自分も地獄に行つて、父と苦しみを共にしよう。自分だけ耶蘇教に帰依することなど思いもよ



本月の御妙判

親孝行

法華経を持つ人は、父と母との恩を報ずるなり。我が心には報ずると思はねども、此経の力にて報ずるなり。

(上野殿御消息 1369)

子たるものマゴゴロは必ず親に通ずるものです。たとへ親が亡くなつても、其の心は依然として存しているのですから、子と親との間は通じ

あつて、いつまでも感応の作用が行われている筈です。したがつて、子が法華経を信じ、その信の力で成仏出来る以上、其親がたとへ信心をもつていなかつたとしても、其の子の信心の功德をうけて、必ず、その子と共に成仏出来るわけです。これ程の大きな親孝行はありません。父母に其

の幸福を与えるのが最上の孝行であり、その親の恩を報ずることになるのであります。われわれは、この授かつた御信心をしつかりと行じて、亡き親に対するまことの孝行をさせて頂かねばなりません。いまはキリスト教と称して末に西洋から伝わつてきて九州方面に多くの信者が出来たのですが、その頃は耶蘇教と云つていたわけです。大村湾に沿つたある村で一人の耶蘇教の宣教師が熱心に伝道していました。

「神ヲ信ズルモノハ天国ニ生レ、神ヲ信ゼヌモノハ地獄ニ墮ツル」と、説いたとき、聴衆の中から一人の武士がツカツカと宣教師の前へ出て「只今仰せられた事は能く了解したが、一つ質問がある。」

「自分の父は武士として立派な一生を送つたものであるが、神を信ずるも知らずに世を去つた。父は今地獄に堕ちているのであろうか、これについてお答え願ひ度い。」とたずねました。

宣教師曰く「それは勿論です。たとへ

「親孝行」に二つあり、親の未来をたすくるとたすけぬとの道、異なり。亡霊、弔いを待つ。」

親のためにも精出しての口唱が肝心であります。

主師父母敬ふことをしるならば心のまなこあける人なり